

令和 3 年度 学校自己評価点検

学校自己評価を行うにあたり、以下の方法で、データ収集、分析、課題の抽出を行いました。

I データの収集

1 アンケートの作成 令和元年度7月－12月

「専修学校における学校評価ガイドライン」

平成25年3月 文部科学省一に準拠した
アンケート内容は別紙1参照

2 アンケートの実施 令和3年度3月

対象	教職員	15名	平成3年度在校生	79名
	回収率	93%	回収率	88%

II データの分析、課題の抽出

1 大項目ごとに平均得点を算出をした

2 大項目ごとに評価と課題を抽出した

III 自己評価点検委員会で討議をした

学校自己評価点検

平成19年には学校教育法の改正により、自己評価の実施と公表が義務化されました。
本校は長野県立病院機構を設置母体とし、平成26年4月に地域医療を担う人材育成を目的に看護基礎教育をスタートさせました。開設当初より、自己点検評価委員会・外部評価委員会を設け、評価・改善を重ねながら学校運営にあたってまいりました。
この度、令和3年度の評価がまとまりましたので、結果の公開をいたしますとともに、今後も分析と検討を重ね、学生の学習環境の改善に努めてまいります。

1 大項目ごとの平均得点

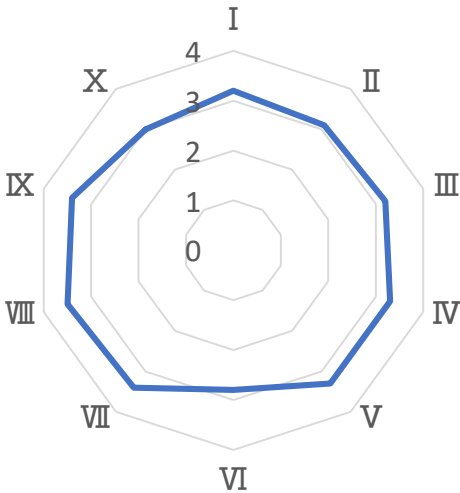
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
教育 理念 目標	学校 運営	教育 活動	学修 成果	学生 支援	教育 環境	学生の 受け入 れ募集	財務	法令の 遵守	社会貢 献・地 域貢献
3.2	3.1	3.2	3.3	3.3	2.8	3.4	3.5	3.4	3.0

平均得点

評価は4段階とした 4：とてもそう思う 3：そう思う
2：あまり思わない 1：まったく思わない

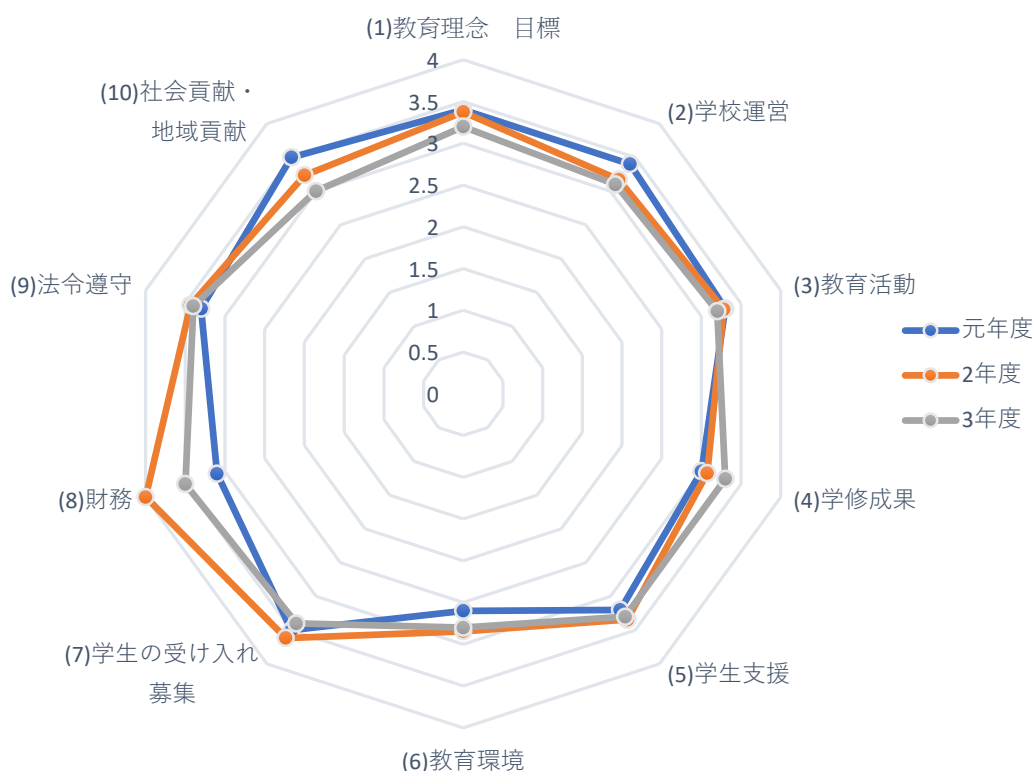
大項目のレーダーチャート

令和3年度学校員評価（教員）



元年度・2年度・3年度の比較

学校評価（職員）



昨年との比較

ほぼ、昨年と同程度の評価であったが、10 社会貢献が低く、4 学修成果が高い評価であった。社会貢献は、コロナ禍において活動自粛を余儀なくされたことが引き続き影響していると考えられる。学修成果は、看護師国家試験が卒業生・既卒生の全員の合格が評価された。

学生の評価

アンケート項目

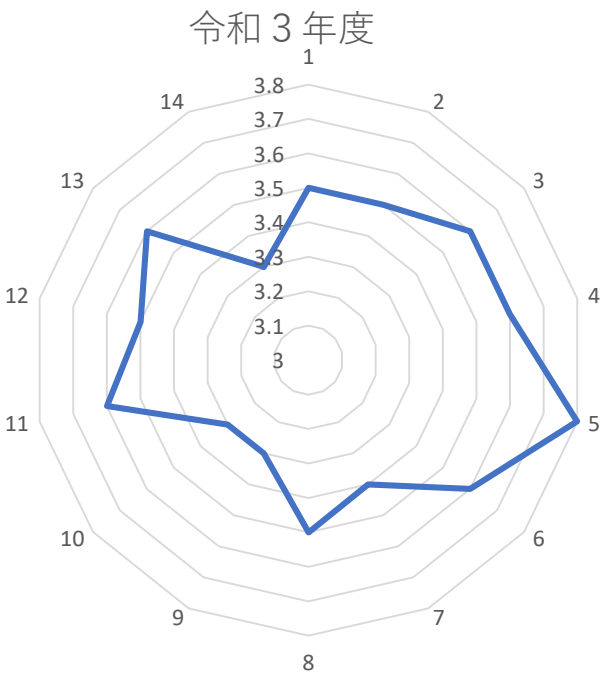
						結果
1	学校は理念・教育目的・教育目標をわかりやすく表現している					3.5
2	教育理念・教育目的・教育目標は学生の学習の指針になっている					3.5
3	理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいる					3.6
4	授業科目の単位履修の方法は学生便覧にわかりやすく明示されている					3.6
5	実習施設との連携など、医療施設との協力体制が整備されている					3.8
6	単位認定のための評価は学校全体として一貫性がある					3.6
7	学数への指導は学校全体として一貫性がある					3.4
8	学習への指導は学生の学習の動機づけと支援になっている					3.5
9	学生の進路・就職に関する支援体制は整備されている					3.3
10	学生が学校生活を円滑に送れるように、施設設備を整備改善している					3.3
11	教育・学習活動に関する情報提供は適切に行われている					3.6
12	学校のホームページはわかりやすく整備されている					3.5
13	学校は、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている					3.6
14	学校は、保護者と適切に連携をとっている					3.3

評価は4段階とした

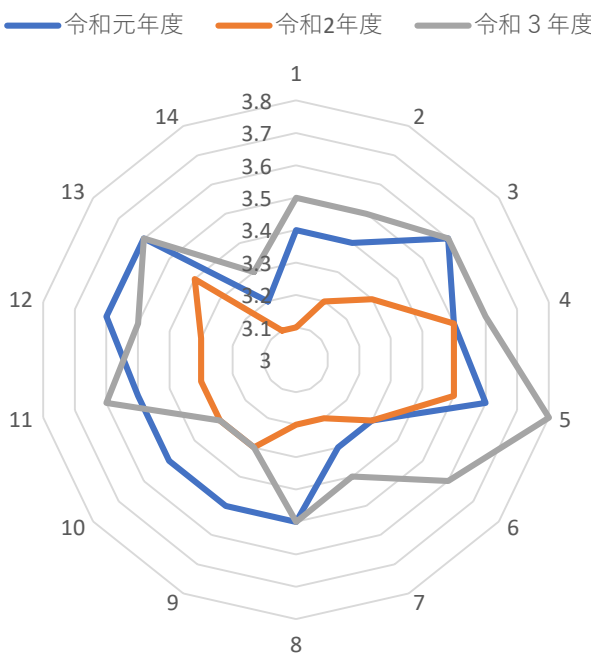
4：とてもそう思う
2：あまり思わない

3：そう思う
1：まったく思わない

学生の評価レーダーチャート



令和元年度・令和2年度・令和3年度に比較



昨年との比較
昨年に比べ、全体的に評価点が上がっている。理念・目的・目標（項目1）は、玄関、各教室、アリーナに掲示し、教員・学生が常に目にすることができるようにしたことが評価された。実習施設との連携（項目5）は、コロナ禍であっても実習が実施できるよう、各実習施設と連携を取り調整を行うことで、実習を実施できたことが評価につながった。毎年低評価である学習施設整備・就職支援・保護者との連携（項目9・10・14）は今後の課題である。

2 大項目ごとの評価と課題

I 教育理念・目標 3.2

令和4年度改正カリキュラムの検討を重ね、そこで、教員の理念・目標への考え方の統一を図ることができた。理念・目標と各教科のつながりが明確なり、学生への説明機会が増えた。また、教育理念・目標を玄関、各教室、アリーナに掲げ、教員・学生が常に目にすることができるようにした。だが評価点は下がっており、引き続き、教育目標・理念の浸透を図る必要がある。

- 課題
- 1 改正カリキュラムの検討を行う会議で、理念・目的・教育目標について点検・確認を行うことで 教員の認識の一致をはかる
 - 2 年3回のカリキュラムの評価会議において、評価の基準を理念・目的・教育目標におき、教育達成度を諮る
 - 3 表記について「わかりやすさ」の観点から点検・確認を行う

II 学校運営 3.1

学校の理念・目標・育成人物像について、学校パンフレット、学校便覧に明記され、カリキュラムまで整合性のある内容となっている。学校運営組織については、図式化され明示されている。カリキュラム、その他事業計画については、週に一度の教員会議で進捗状況の確認・評価を行い、月1度の教職員連絡会議において職員全体の意思統一を図っている。学校の最高意思決定機関である運営会議は、月に一度開催し適時性のある議決を行っている。業務の効率化、教職員の業務分担については偏在については、実態調査をし、会議で調整を図っている。

- 課題
- 1、教職員の業務分担を見直し、偏在の是正を図る

III 教育活動 3.2

新カリキュラム作成のため、2週に1回の会議により本校の目指すカリキュラムの見直しができた。前年より評価が下がった理由として、新カリキュラムの検討を重ねた結果、旧カリキュラムの内容の一貫性や整合性の課題を見出したことによるものと考えられる。

ICTに関しては、各学年の教室にWi-Fi環境を整えたことにより、リモートでの講義を実施できた。会議形式の内容には、機材等が不足であるためさらなる整備が必要である。

- 課題
- 1、新カリキュラムを運用する中で、教員間の意思統一が図られることを目指す
 - 2、国家試験に向けての指導体制の強化を継続する
 - 3、ICTを取り入れたカリキュラムの開発を継続する

Ⅳ 学修成果 3.3

令和3年度卒業生24名のうち、県内就職19名（24名中：機構8名 33.3%、うち木曽5名 20.8%）県外3名、進学2名であった。昨年の進学者も卒業後は木曽1名、中信地区に1名が就職し県内地域の就業率は確保できた。

看護師国家試験に向け、基礎学力の低い学生に対し個々の学力維持向上に努めたことにより、看護師国家試験合格率は100%（既卒1名を含む）であった。

令和2年度卒業生に対し、3月にアンケート調査（対象22名）を実施した。回答数4名、回収率18.1%。例年と比較し（前年37%）、回答が少なかった。質問紙の送付と返信の方法としているが、回答の手間が回収率の少なさの原因として考えられる。インターネットを用いるなど方法の検討が必要である。卒後一年間の状況として、回答者のうち離職者はいなかった。将来の見通しを立て実践にあたっている。

令和3年度は同窓会総会を兼ねホームカミングデーを計画したが、コロナ禍の影響がありホームカミングデーの参加者はなく、卒業後3か月の時期での支援とはならなかった。卒業時、卒業後の学校の関わりを示し、支援体制を整える必要がある。

- 課題
- 1、看護師国家試験合格への支援を全教員での支援する
 - 2、基礎力リサーチテストの資料を活用し、低学年からの学習習慣獲得に関わる。
 - 3、卒業生の動向調査の継続とキャリアアップへの支援を考える
 - 4、ホームカミングデーを含めた卒業後支援体制の強化をする

Ⅴ 学生支援 3.3

進路、就職について、2年次は外部講師により就職活動の講座を受講し、キャリア形成講座にて認定看護師、専門看護師等からキャリア形成の実際を学んでいる。就職・進学に向けた履歴書のアドバイスや、学習支援、面接練習を実施した。

学生の経済支援では、機構修学資金制度、日本学生支援機構奨学金、長野県看護職員修学資金貸与制度、他各病院の奨学金制度あり、随時、保護者・本人に案内をした。また、令和元年度より、給付型奨学金制度を導入し活用している。令和3年度より「大学等における修学の支援に関する法律」減免制度をスタートした。コロナ禍において経済的な支援が必要な学生には随時、情報発信をして支援に繋げ、家計急変による退学者はなかった。また、連合長野よりアルコール消毒液の支援があった。

2年次には県立病院機構研修センターにてシミュレーション研修、学内にて多機能シミュレーション演習を2回実施、3年次には統合実習前、卒業式前のシミュレーション演習2回を実施し臨床判断能力の基礎となるアセスメント力強化を実施した。

保護者との連携に対しては、学校ブログを年41回更新し学生の様子を伝え、全学年にひまわり通信として、各学年の様子を伝える通信を保護者に発行した。

- 課題
- 1、奨学金制度の活用による経済的支援の継続をはかる
 - 2、保護者との連携を持続する

VI 教育環境 2.8

新たに別棟にひまわり棟（研修棟）が利用できるようになり、コロナ対策として、行事・試験などで体調不良者・県外者の控え室等で有効利用ができた。講義や研修、各発表会、会議を遠隔で行うことが多くなり、そのためのwi-fiや設備が不十分な部分もあり調整が必要である。

インターンシップについては、情報提供はしているが、平日行われるインターンシップについては、欠席扱いとなっている。

海外研修について実態として在学中に希望があるのか現状把握してから方策を考えたい。

防災体制は、学内で年2回避難訓練・消火訓練を実施するとともに、火災報知器の点検が行われ防災体制は整われている。実習施設ではコロナ禍もあり防災訓練に参加できるよう調整することが困難な状況であり検討が必要である。

- 課題
- 1、リモート環境を整え、教員が準備・設定ができるようマニュアル制作し習得できるようにしていく。
 - 2、実習施設との連携を深め、実習継続のための方策を立てる
 - 3、インターンシップ参加の支援を行う
 - 4、コロナ禍が終息したら、海外研修の意向調査をする

VII 学生の受け入れ募集 3.4

コロナ禍により、高校訪問やガイダンス参加が制限されており、高校等への情報提供が十分ではなかった。オープンキャンパスは対面で実施したが、コロナ禍のため高校側で制限をかけたこともあり、例年よりも少人数の入場者数となった。また、中信地区に看護大学校開校したことも影響したか、入学試験の受験者の減少し入学生確保が困難となった。

新聞に学校PR記事を掲載し、学校の知名度向上に向けた取り組みを実施した。

学校案内パンフレットに就職・進学先について載せているが、合格率については伝えることが出来ていない。また、学生が簡単にアクセスできるホームページには就職・進学先については載せていない。情報を伝える場が少ないため更なる学校の知名度を上げる工夫が必要である。

- 課題
- 1、ガイダンスの多チャンネル化を図る
 - 2、ホームページの活用の拡大を図る
 - 3、高校訪問・ガイダンスの充実、リモートなど方法・訪問先の検討をする
 - 4、学生が簡単にアクセスできるSNSについても検討し学生募集に活用していく

VIII 財務 3.5

入学金、授業料収入と長野県立病院機構からの運営費負担金により運営されている。独自収入を増やすことは難しいが、学生の確保に努め、収入の確保を図ることが必要である。

開校時に手を入れているものの施設は古く、修繕も課題。また、昨今の原油高で光熱水費の支出も増えている。照明のLED化についても検討が必要である。

- 課題
- 1、学生の確保に努め、きめ細かい指導を実施し入学定員を満たす
 - 2、支出面では、職員に財務状況を発信し協力を得るとともに、予算のさらなる効率的執行を図る

IX 法令等の遵守 3.4

全体では前年度と変わりなく、法令や設置基準に沿った運営をしていると評価された。研究・論文発表に備え、倫理審査委員会の設置に関する課題は継続している。県立病院機構の病院が運営する倫理審査委員会の協力が得られるかの確認をする。

- 課題 1、入学時・入職時のガイダンスを丁寧に行う
2、倫理審査委員会の設置を検討する

X 社会貢献・地域貢献 3.0

コロナウイルス感染症の関係により活動制限が必要であったため、ほぼ実施できなかった。そのため低評価であった。

学校の教育資源や施設を活用については、地域の要請を受けて妊婦体験スーツと赤ちゃんモデルの貸し出しを実施し、教育の一環として地域貢献につながった。

また、時間を短縮して文化祭の一般公開も実施した。コロナ禍のため、木曽地区災害時医療救護訓練は実施できなかった。

ボランティア活動を推奨し学生に紹介し、参加しやすい環境を整えている。コロナ渦であるため学生のボランティア活動が難しい状況ではあるが、紹介することで参加意欲につながった。

地域に対する公開講座・教育訓練については、障がい者支援施設において職員に対し救急蘇生法を含む救急・救命講座を実施したが、県民手話講座はコロナのため実施に至らなかった。

- 課題 1、ボランティア活動の学生・教員の関与を引き続き支援する
2、学校の資源や教員の積極的活用を推進する